

計測分野で日本のモノづくりに貢献

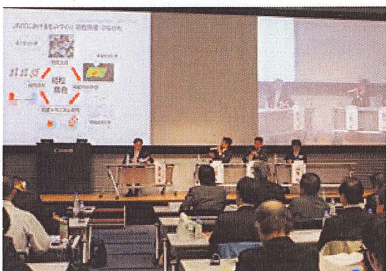
携帯情報端末などの電化製品や自動車・航空機などに搭載される機器の小型化に伴い、電子部品や金型などの製造には、ナノ(10億分の1メートル)レベルの加工が求められています。このナノレベルの加工に欠かせない工程が、ナノレベルの計測です。製造業の分野では、“加工と計測は、モノづくりの両輪”と言われるほどです。

キヤノンMJグループは、1970年にキヤノンの出資により設立した米国Zygo社^{※3}とともに、超精密計測の技術向上、および普及啓発活動を通じて、日本のモノづくりの現場を支援しています。

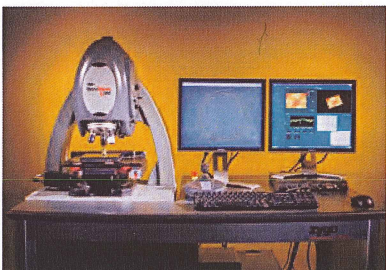
例えば、先端技術を研究する大学・研究機関や製造業のお客さまの声をお聞きし、計測機器の開発・改善につなげたり、技術セミナーや展示会を通じて、計測分野に携わる方の情報共有のお手伝いをしています。特に、2003年から毎年開催している「Zygo Metrologyセミナー」は、計測分野に関する最新の技術情報を製造現場に提供するとともに、製造現場のニーズを研究者にフィードバックする機会にもなっています。第10回を迎えた2012年のセミナーには、119人が参加し、計測分野の人的ネットワークの基盤ともなっています。

今後ともキヤノンMJグループは、大学・研究機関と製造業のお客さまの技術交流の橋渡し役となり、新たな価値を生む高度なモノづくりに貢献していきます。

※3 米国Zygo社は、高精度、高効率な光計測技術を製品化し、光計測機器のシェアは40%を超え、業界のデファクトスタンダードになっています。



「第10回 Zygo Metrologyセミナー」
パネルディスカッションの様子



ナノレベルの計測を可能とする
「Zygo NewView™ 7300」

Zygo製品のユーザーインタビューは、[こちら](http://cweb.canon.jp/indtech/zygo/interview/index.html)
<http://cweb.canon.jp/indtech/zygo/interview/index.html>

武蔵野大学 学生との意見交換会

キヤノンMJグループでは、コーポレートサイト「canon.jp」のCSRサイトにお問い合わせ専用フォームを設けるなど、ステークホルダーの皆さまのご要望にお応えするための体制を整えています。2012年は、さまざまなご意見のほか、キヤノンMJグループのCSR活動に関するアンケートや小中学生向け企業見学会のご依頼など、約60件のお問い合わせにお応えしました。

このような対応の一環として、2012年10月に、「ECO REPORT WAY21」プロジェクトを運営する武蔵野大学環境学部環境学科の学生との意見交換会を行いました。このプロジェクトは、CSR報告書を学生の視点で評価・分析し、学生ならではのアイデアを企業へ提案する活動で、学生にとっては、自身の職業観を養う機会となるとともに、企業にとっては、若い世代の意見を聞くことによって、より魅力のあるCSR報告書に変えていくきっかけとなっています。

意見交換会は、まず、CSR報告書の評価・分析結果についてのご報告を受け、続いて学生一人ひとりから、キヤノンMJグループに対する要請や期待を挙げていただき、それらを相互に確認していくというプロセスで進めました。

この意見交換会の実施が、学生にとっては、企業の視点や考え方に刺激を受け、専門的な知識や社会的な課題を積極的に調査する意識を持つ機会となりました。一方、キヤノンMJグループにとっては、情報開示のあり方や学生が期待する活動分野など、具体的な課題を認識することができました。



評価結果報告の様子



意見交換会の参加者一同

「ECO REPORT WAY21」の詳細は、[こちら](http://www.ecoreport.jp/)
<http://www.ecoreport.jp/>